

海外文献紹介

増大する社会保障への負担

(西ドイツ)

西ドイツの国民総生産に対する社会保障費の割合は世界でも最も高い方に属し、今後のこの割合の動向が注目されている。

西ドイツの1972年の国民総生産に対する社会保障費の割合は22.1%で、フランスの18.7%、イギリスの17.1%よりも高い(「ヨーロッパ共同体の資料」より)。わが国の場合(1973年6.2%)に比べると問題にならないほど高い。その西ドイツにおいて今後さらに社会保障費は増大し、それにとまって社会保障への費用負担、とくに社会保険に対する被保険者および雇主の負担が増大する見込みである。つぎの表は1973年から1980年までの社会保険の保険料の上昇を予測したものである。

これによると、年金保険の保険料(1975年現在、基本賃金の18%)のほかは

年	保険料算定報酬限度額(月額)		年金保険		失業保険		疾病保険		社会保険計	
	年金保険・失業保険(マルク)	疾病保険(マルク)	保険料率(%)	最高保険料(マルク)	保険料率(%)	最高保険料(マルク)	保険料率(%)	最高保険料(マルク)	保険料率(%)	最高保険料(マルク)
1973	2,300	1,725	18	396	1.7	39	9.2	159	28.9	594
1974	2,500	1,875	18	450	1.7	43	9.5	178	29.2	671
1975	2,800	2,100	18	504	2	56	11	212	31	772
1976	3,100	2,325	18	558	2	62	12	279	32	899
1977	3,500	2,625	18	630	2	70	13	341	33	1,041
1978	3,800	2,850	18	684	2	76	14	399	34	1,159
1979	4,200	3,150	18	756	2	84	15	472	35	1,312
1980	4,600	3,450	18	828	2	92	16	552	36	1,472

(注) 保険料率は基本賃金(1日あたり賃金)に対する割合。保険料は月額。

(資料) Arbeit und Sozialpolitik, 2/1975, S. 51.

今後かなり保険料が引き上げられる見込みである。とくに疾病保険の場合は医療費の増高にともない保険料はますます高くなることが予想されている。ここに示された疾病保険の保険料は全疾病金庫の平均である。疾病保険の保険料を中心とした保険料の上昇にともない、一般労働者が負担する社会保険料(年金保険、失業保険および疾病保険の保険料)の料率は、1974年の14.6%(折半負担分)から1980年には18%になることが予測され、最高保険料は月額335.5マルクから736マルクと2.2倍に上昇する見込みである。疾病保険の保険料率は1974年の9.5%(労使折半負担)から1980年には16%に上昇する見込みであり、最高保険料は月額178マルク(労働者負担分は89マルク)から552マルク(276マルク)に達するとみられている。

このように社会保障に対する国民の負担は将来相当大きいと予想され、増大する負担にどのように対処していくかが大きな課題となっている。保険料とともに所得税も今後引き上げられる見込みであり、労働者の社会的負担は相当なものになるとみられている。ちなみに賃金に対する所得税率は1972年の12.9%から1977年には15.9%になることが予測され、1977年における社会保険料

と所得税の合計は賃金の32.4%に達する見込みである。

Arbeit und Sozialpolitik, 2/1975, S.51.

Sozialbericht 1973, S. 141.

(石本忠義 健保連)